

高岡市埋蔵文化財調査概報第23冊

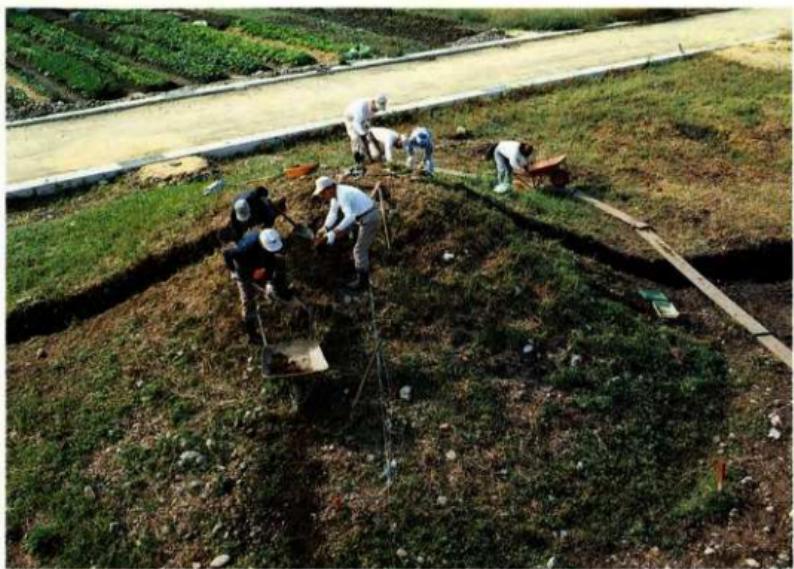
# 移田野塚遺跡調査概報

—平成4年度、中田土地区画整理事業に伴う調査—

1993年3月

高岡市教育委員会





1. 調査風景（北東）



2. 主体部近景（北東）



## 序

主要地方道富山戸出小矢部線は、射水丘陵の北辺を走って来て、高岡市の常国地内で平野部に降り、中田地区の市街地を西へ進んで、庄川を渡り、戸出地区を貫いて小矢部市へ達しています。この道は近世にも、北陸道の本街道ないし脇街道として重要な役割を果たしてきました。またかっての木曾義仲の進攻ルートでもあります。さらに遡れば、奈良時代の東大寺領石栗莊の絵図に見られる砺波より婦負に至る道を、この道に該当させる説もあります。このように、高岡市中田地区は、古代から現代に至るまで、交通の要所に位置してきました。

現在の中田地区的市街地に該当する近世の中田村は、宿駅として位置付けられ、御倉の設置もなされました。また隣の常国村には御旅屋が設置されました。この旧中田村の一角に以前より、塚があり「せんもんやま」と称されてきました。

この度、中田土地区画整理事業の実施に伴い、この塚、すなわち「移田野塚遺跡」の発掘調査を実施することになりました。調査の結果、近世の所産であることが判明いたしました。

終わりに、調査に当たり、御協力頂きました、地元の皆様、関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成5年3月31日

高岡市教育委員会  
教育長 篠 島 満

## 例 言

1. 本書は、移田野塚遺跡における発掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、高岡市中田土地区画整理組合（理事長松下貞良）の委託を受け  
て高岡市教育委員会が実施した。
3. 調査地区は、高岡市中田字木村4984番地である。
4. 現地調査期間は、平成4年10月1日から11月30日までである。
5. 調査関係者は、次のとおりである。  
社会教育課長 野村一郎  
社会教育課文化係長 大石茂  
社会教育課文化係主任 山口辰一  
社会教育課文化係事務員 榎木和代
6. 当遺跡の地元での伝承等については、田中俊郎氏（高岡市中田土地区画整  
理組合）から御教示を得た。
7. 出土した陶磁器については、宮田進一氏（富山県文化振興財団）から御教  
示を得た。
8. 出土した人骨については、森沢佐蔵氏（富山医科薬科大学）に鑑定してい  
ただくと共に、その結果を報じてもらった。
9. 本書の執筆は、山口が担当した。

## 調査参加者名簿

発掘 稲場由美子、大谷知可子、岡島敏雄、岡田幸子、小林茂、藤田鉄次、  
杉本広政、専徳一夫、高倉鶴藏、高田えみ子、道谷美奈子、橋真理子、  
前田武蔵、松村孟、三島幸代、水外一郎  
整理 稲場由美子、大谷知可子、岡田幸子、高岡瑞央、寺井久子、道谷美奈子、  
橋真理子、姫野さおり、三島幸代

## 目 次

## 卷首回版

序

例 言

目 次

I	序 説	1
II	遺 構	5
III	遺 物	10
IV	結 語	12
V	付 編	13

## 挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図 (1/5万)	1
第2図	調査地区位置図 (1/5,000)	2
第3図	調査地区現況図 (1/1,000)	3
第4図	地形測量図 (1/200)	5
第5図	試掘坑配置図 (1/200)	6
第6図	発掘区実測図 (1/200)	7
第7図	土層断面実測図 (1/80)	8
第8図	近世陶器実測図〔1〕(1/3)	10
第9図	近世陶器実測図〔2〕(1/3)	11

## 図 版 目 次

卷首図版	1. 調査風景（北東） 2. 主体部近景（北東）
図版 1 遺構	1. 調査地区全景（西） 2. 調査地区全景（北）
図版 2 遺構	1. 石塔近景（北東） 2. 試掘坑設定状況全景（北西）
図版 3 遺構	1. 試掘坑設定状況近景（東） 2. 試掘坑設定状況近景（西）
図版 4 遺構	1. 発掘区全景（北西） 2. 盛土状況近景（南西）
図版 5 遺構	1. 盛土状況近景（北） 2. 盛土状況近景（東）
図版 6 遺物	1. 近世陶器、内面 2. 近世陶器、外而
図版 7 遺物	1. 近世陶器、内面 2. 近世陶器、外而
図版 8 遺物	1. 近世陶器、内面 2. 近世陶器、外而

# I 序 説

## 地理的環境

高岡市中田地区（旧中田町、昭和29年に当時の中田町と般若野村が合併して新たな町が発足。昭和41年に高岡市と合併）は、高岡市南東部に位置する。北から東側は射水郡大門町・小杉町と境を接し、南側は砺波市の庄東地区となる。西側は庄川を隔て、高岡市戸出地区（旧戸出町）に至る。この中田地区は、砺波平野の北東部で、古代以来、砺波郡の北東部に位置すると言える。南北3.5km、東西2.9kmの拡がりである。



第1図 遺跡位置図 (1/5万)

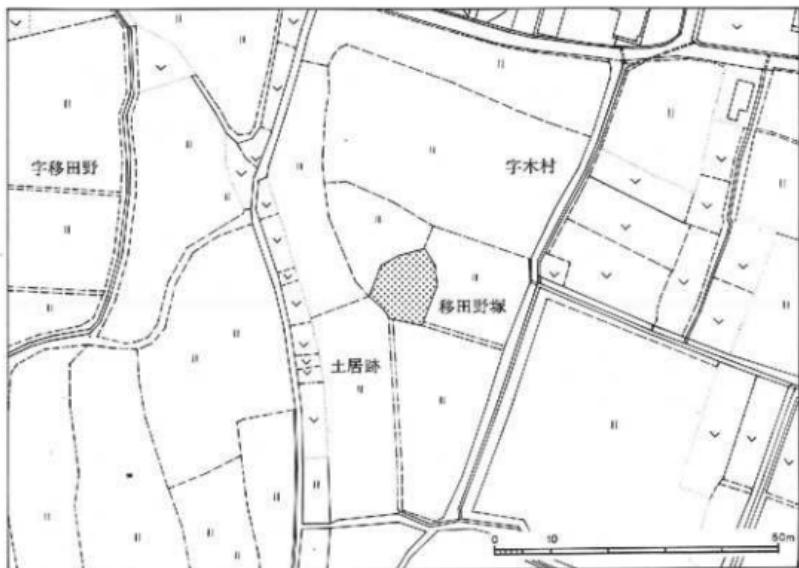
中田地区の東側は金山丘陵と芹谷野段丘からなり、この間を和田川が北流している。西側は平野部であり、標高15~30mを計る庄川扇状地の末端部となっている。庄川は現在中田地区の西側を北流して富山湾へと注いでいるが、これは、天正13年（1585年）の地震による影響や、加賀藩による寛文10年（1670年）から正徳4年（1714年）までの工事の結果、流路が固定してから以後のことである。それまではここより西側を奔放して北西に流れ、主要な川筋も変化が激しいものであった。

#### 歴史的環境

中田地区の歴史では、「弓の清水」伝説と般若野の戦いが名高い。いずれも源平騒乱期のものである。弓の清水は、進軍中将兵が喉の渴きを訴えたので、木曾義仲が「南無八幡大菩薩」と唱えて矢を放したところ、清水が湧き出たとするもので、常国の大段丘崖の一角が伝承地とされている。般若野の戦いは、般若野に布陣する平家の平盛俊の軍勢と、現在の富山市呉羽の方から攻め上った木曾義仲配下の今井兼平の軍勢との戦いで、寿永2年（1183年）のことである。



第2図 調査地区位置図 (1/5,000)



第3図 調査地区現況図 (1/1,000)

源平の戦いにもその名が見える「般若野」は、現在の中田地区を北限とし、その南側一帯の地域を指す名称であったようである。中世の文献では、徳大寺領の「般若野莊」のことが記されており、その内容よりこの莊園の成立が院政期に遡ることや、その範囲が砺波市の庄東地区・西地区を中心とし、北側は中田地区、南側は庄川町三谷地区までを占める広大なものであったことが判明している。

天正13年（1585年）には、豊臣秀吉の軍勢がこの中田地区を通り、富山城を攻めている。

「中田」の名は勝興寺系図に見える。文明13年（1481年）に康兼（蓮如上人第4子の蓮齋）が般若莊中田村に徳成寺を建立と記されている。近世の村落としての加賀藩領の中田村の成立は、慶長10年（1605年）に総検地が実施され、村定がなされたとされる。さらに慶長20年（1615年）に宿送入足伝馬の御印の受領があり、宿場町となつた。

近世の中田村は明治12年（1879年）に中田町と改名され、明治22年（1889年）の町村制施行の時、近隣の村を編入して新たな中田町となつた。この時点で現在の中田地区では、西側の中田町と東側の般若野村とが成立したのである。近世の中田村は、現在、中田地区の市街地を中心とするものであり、現行の高岡市大字中田である。

### 調査地区の位置

調査地区は、中田の市街地の南西側である。北側120mの所を旧街道が東西に走る。東側は、130mの所を主要地方道新湊庄川線が走り、庄東地区を南北に結んでいる。南側160mの地点には移田八幡宮が鎮座する。西側140mの地点には新開川が北流している。当遺跡はこれらに囲まれた水田や畑の中に立地している。

### 調査地区の近世と現況

調査地区は近世の中田村の南西側に当たる。この地点に加賀藩は、正保3年（1646年）4戸前の御蔵を設置した（中田御蔵）。その後増設され13戸前となった。この御蔵所の西側には土居があり、その西側に新開川が流れている。御蔵米はこの川を使って運搬されたとされる。土居の存在は現在もその痕跡を残し、地図上でその位置が判明する。近年まで、この土居の基礎部分が存在していたとのことである。その後この御蔵所一帯は、吉田家の土地となり、現在に至っている。なお、この土居のやや西側の地点を境に、東側が小字木村、西側が小字移田野である。また、この道路の北北西約340mの地点、中田中学校の北側には「かぞいろ塚」が所在している。

### 調査経過

高岡市中田土地区画整理事業は、平成元年度より平成5年度まで事業計画で実施されているが、当遺跡の現状保存が難しい状況になったので、高岡市中田土地区画整理組合の委託を受けて、高岡市教育委員会が発掘調査を実施することに至った。調査費用は高岡市中田土地区画整理組合の負担である。

### 調査概要

発掘調査は平成4年10月1日から同年11月30日まで実施した。実働調査日は17日間である。調査面積は90m<sup>2</sup>である。

発掘調査は「塚」本体とその周辺部である。塚のみの調査であり、それ以外のものは検出されなかった。出土遺物は近世陶器である。

調査地区的グリッドは平面直角座標系に合わせた。X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ13,082km、北へ75,476kmの位置である。

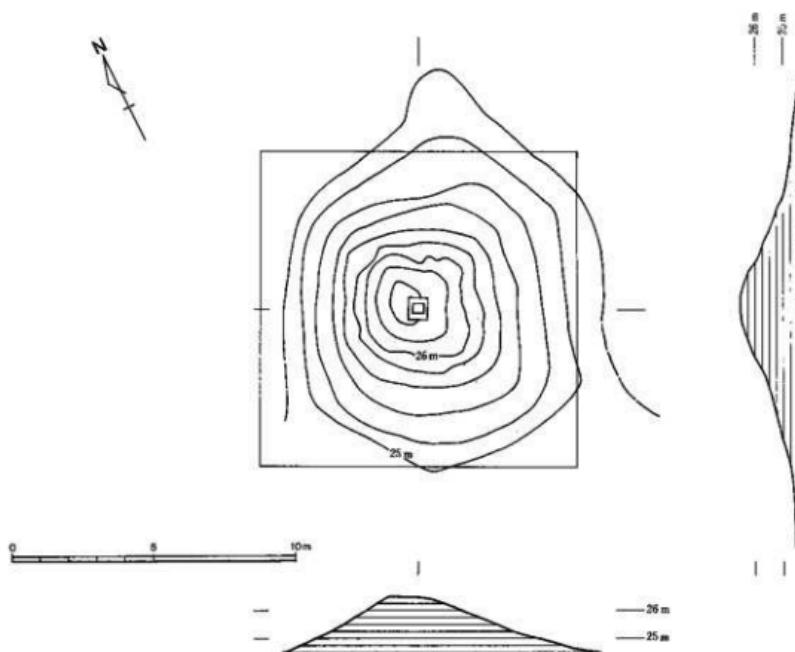
## II 遺構

### 概観

発掘調査前の当遺跡の概観は、土鏡頭型の塚の上に石の塔が載る形であった。草が生えていたため形態がはっきりしなかったが、発掘調査に先立ち草刈りを実施した。この状態では、当塚が四角錐ないし截頭四角錐を示すことが明白であった。塚の頂部の石の塔は2段の基壇石（台座）の上に塔本体が載る形であった。それぞれの大きさは以下のとおりである。

- ①石塔本体、幅35cm、長さ35cm、高さ96cm、正面に「南無阿弥陀仏」、裏面に「吉田氏」
- ②上方台座、幅46cm、長さ44cm、厚さ13cm
- ③下方台座、幅71cm、長さ88cm、厚さ18cm

それぞれを組み合わせるため、コンクリートが使われており、少なくとも、近年の造立ないし

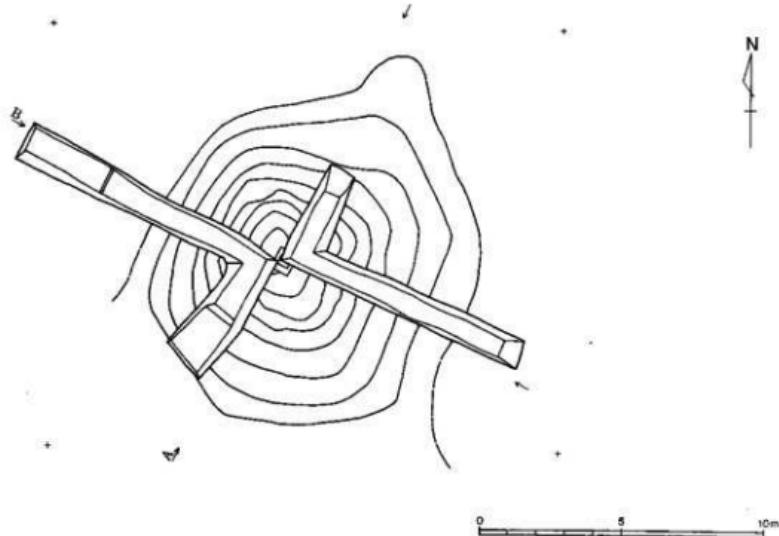


第4図 地形測量図 (1/200)

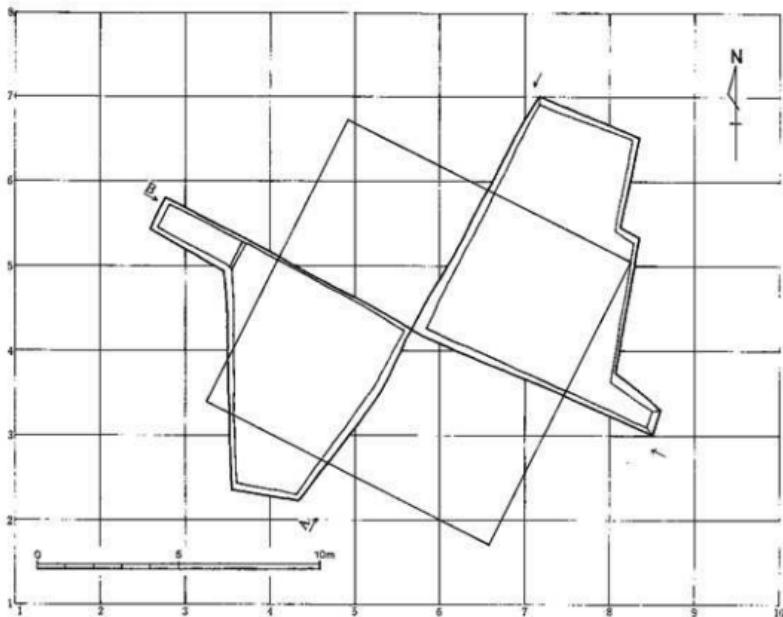
補修を窺わせるものであった。石材からは、上方台座のみが他の2者と違い、古い様相を示すものであった。

この塚については、遺跡（埋蔵文化財）として、以前より「移田野（いかだの）塚」と呼称されてきた。地元では「せんもんやま（泉門山？）」と呼ばれ、馬の骨が埋まっているとの言い伝えがあった。この塚は子供達の遊び場となり、冬にはスキーコースともなった。また、石の塔についても、現在のような子供には持てない大きなものではなく、台座の上に丸石が一つあるのみで、それを転がしたり、台座の上に再び載せたりして遊ばれていたとのことである。一方、地元の有力者であった吉田家の初代の墓との主張もある。

調査は、発掘前の現況の写真撮影から開始した。そして地形測量を行った。これは25cm間隔のセンターで作図したもので第4図で示した。これによって塚が、四角錐ないし截頭四角錐を示すことがよりはっきりした。また、台座が四角形の辺に平行して設置されていることも判明した。石塔の正面を塚の正面とすれば、塚は真北に対して、26.5度東へ偏っていることが読み取れた。その後、石塔類を移動して、発掘にかかった。



第5図 試掘坑配置図 (1/200)



第6図 発掘区実測図 (1/200)

### 試掘坑の設定

試掘坑は、この26.5度の東偏を基準に、西北西～東南東に先ず設定し（東西トレンチと略称）、さらにこれと直交する形で、北北東～南南西（南北トレンチと略称）に設定した。その後試掘坑を拡張する形で、北東側と南西側を掘りさげた。これらについては第5・6図で示した。

### 盛土の状態

盛土、すなわち塚の構造の状況は土層断面の観察により行った。基本土層は次のとおりである。

第Ⅰ層 表土。

第Ⅱ層 盛土、礫層、塚本体。

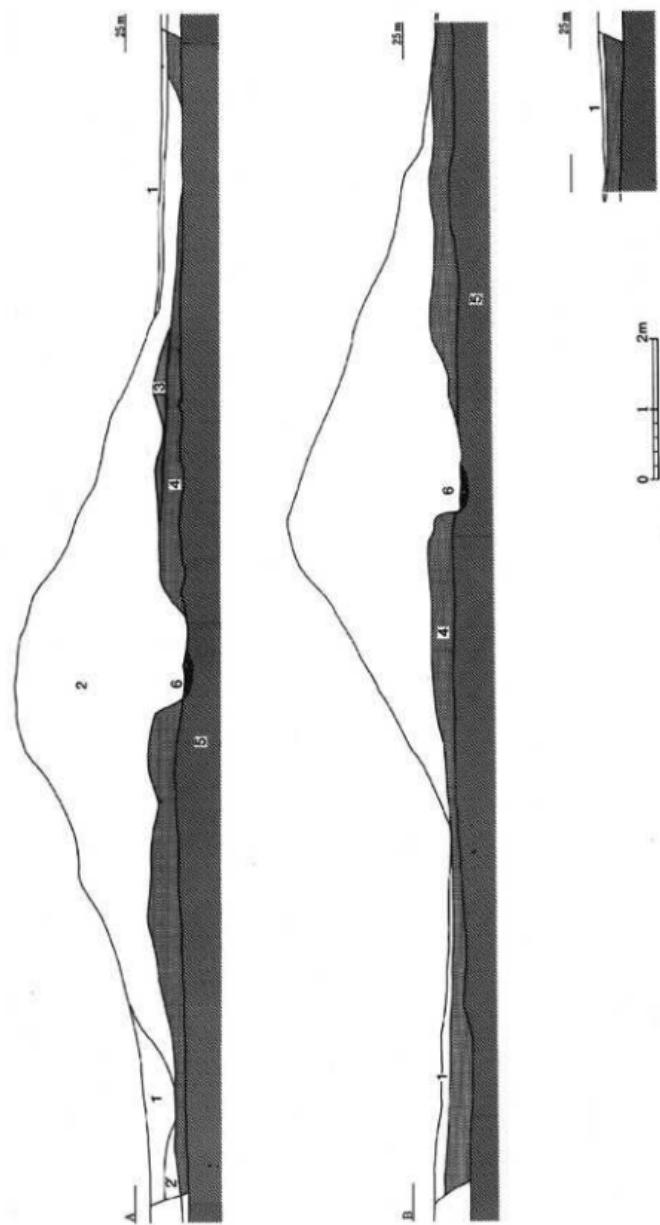
第Ⅲ層 灰色粘質土、部分的に存在。

第Ⅳ層 灰褐色粘質土、旧表土と推定、20～40cmの厚さ。

第Ⅴ層 黒褐色粘質土、基盤層の上層で砾を多量に含む部分が多い、20～40cmの厚さ。

第Ⅵ層 黄褐色粘質土・黒灰色砂層、基盤層の下層。

第7圖 土層斷面實測圖 (1/40)



塚本体の表層には、表土とも言うべく土層があったかもしれないが、現況は表面より礫層となり、変化なく下部に達していた。すなわち構築の状況を窺わせる土層の違いはなく、礫層の單一層であった。

#### 主体部

掘り進んだ最後の段階において、土層の変化に気付いた。塚中心部の北東側試掘坑において、主体部と推定される部分が検出された。旧表土と推定される灰褐色土層を切り込む形で、礫層が入り、その下方に炭を含む土層を確認した。炭を含む土層は、小さな土坑状のもので、幅約60cm、深さ約10cmであった。この炭に混じって、布片と骨の細片が出土した。この主体部とした部分からは、炭、布片、骨の細片以外は出土しなかった。発掘はこの主体部を掘り上げて終了した。

骨は脆く、現地での土との分離は困難だったので、土と共に取り上げた。そしてこの状態で森沢氏に鑑定を依頼した。森沢氏により、水洗が行われ、炭、骨、土が分離された。この時に布片の存在が確認された。骨の分量は、小さなシャーレ1個分である。炭は両手いっぱい分である。

### III 遺 物

炭、布片、骨の細片以外の出土遺物は、近世の陶器である。これらは盛土である礫屑から出土した。越中瀬戸、京焼、唐津、越前である。第8・9図で24点図示した。

#### 1. 越中瀬戸

第8図—101～112。第9図—113～120。楕・皿類；101～112。灰釉や鉄釉が施されている。小鉢類；113～117。鉄釉系の釉薬が付く、窯道具を転用したようなものもある。擂鉢；118～120、外面に鉄釉系の釉薬が付く、内面はオロシ目である。

#### 2. 京焼

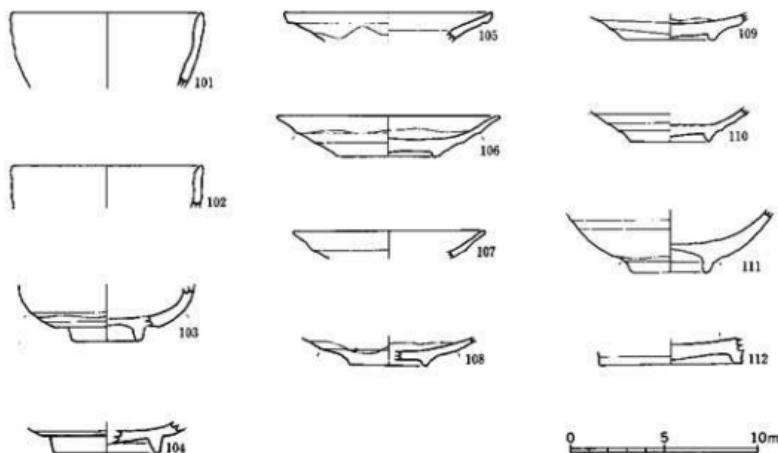
第9図—121～122。明確ではないが、京焼と考えられる碗である。

#### 3. 唐津

第9図—123。擂鉢の口縁部である。鉄釉系の釉薬が付く。

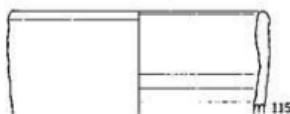
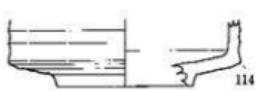
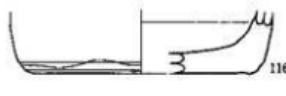
#### 4. 越前

第9図—124。擂鉢の底部である。

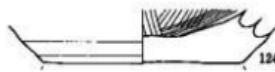
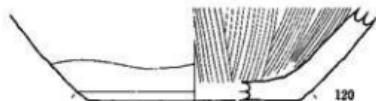
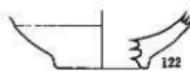
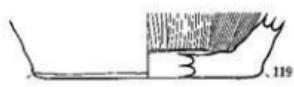
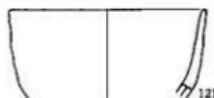
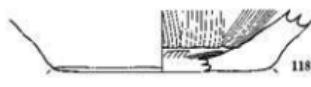


第8図 近世陶器実測図(1) (1/3)

越中瀬戸；101～112



0 5 10cm



第9図 近世陶器実測図(2)(1/3)

越中瀬戸；113～120、京焼；121～122、唐津；123、越前；124

## IV 結語

当移田野塚は、地形測量と発掘調査により、以下のような規模をもつ塚と復元できる。

形態：四角錐ないし裁頭四角錐

底辺の一辺：11m

高さ：2 m

盛土は、付近に存在する礫を主体とするもので、盛り上げ自体は単純なものと想定できる内容であった。盛土からは、近世陶器の破片が出土したのみである。

塚の中心部の旧表土・基盤層を掘り下げ、土坑状の施設を設け、炭のなかに骨片を入れている。これがこの塚の主体と判断した。言い換えれば、この施設・骨片のため、また、これに象徴される目的のため、塚を構築したと推定したい。

塚の時期については、出土した近世陶器片より、17世紀後半頃から18世紀の初頭ごろとしたい。

塚構築の目的や塚の性格を直接示すものの、検出や遺物の出土はなかった。骨片の量や内容より、単なる墓地とは言えないであろう。この地点が近世の御蔵跡であったことは興味を引き、これとの関連も考慮しなければならないであろう。

### 参考文献

木下秀夫他 1968 「中田町誌」 中田町誌刊行会

坂井誠一他 1974 「角川日本地名大辞典」 —16富山県 角川書店

古岡英明他 1991 「たかおか歴史との出会い」 高岡市

## V 付 編

### 高岡市移田野塚遺跡出土骨概要

富山医科薬科大学医学部第1解剖学教室 森沢 佐歳

移田野塚遺跡（所在地：高岡市中田字木村4984番地）の調査は、平成4年10月1日～同年11月30日まで、高岡市教育委員会が主体となり行われた。その結果、塚の中央に掘り下げられた墓壙（構築推定時期：近世前期）から、少量の焼骨片が炭化物とともに発見された。この出土人骨の調査を依頼されたので、概略を報告する。

色調と骨質：骨の色調は白色または淡黄色であり、骨質は硬く、その破線は鋭利である。骨表面には小亜裂がみられる。これらの形状は焼骨であることを示している。

重量と骨種：全骨（数十片）重量は約10gである。出土骨の骨種は体幹骨（肋骨2片、仙骨1片を含む）、または体腔骨（骨幹3片を含む）のいずれも小骨片のみであり、頭蓋骨片はみあたらない。これらの骨片は人骨の部分骨の可能性がある。部位の重複はない。人骨の部分骨とした場合の所見は、以下のとおりである。

所見：肋骨2片（左右不明）は厚く、高い。仙骨1片は仙骨底を含む部位であり、底部の骨端と仙椎体とが壊着完了し、仙骨底辺縁には小骨棘がみられる。体腔骨骨幹2片（骨種、左右不明）の緻密質の厚径は約2mmである。他の小骨片の年令的所見においても、成人骨の特徴が得られ、未成人骨としての特徴がみられない。

以上、出土骨は少量の焼骨片に限られるが、この遺跡人骨の年令は成人骨と思われ、詳細な年令および性別は不明である。

### 関連文献

- 森沢佐歳・加藤克知 1973 「新潟県大墓遺跡出土の人骨に関する報告」『北陸高速自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』 新潟県教育委員会
- 森沢佐歳・松田健史 1985 「蔽田薬師横穴墓群の出土人骨について」『蔽田薬師中世墓発掘調査報告書』 水見市教育委員会
- 森沢佐歳・松田健史 1987 「一乘谷朝倉氏遺跡出土人骨について」『1986年度、朝倉氏遺跡資料紀要』 福井県立朝倉氏遺跡資料館
- 森沢佐歳・松田健史・小片保 1987 「寺地遺跡（配石遺構）出土の人焼骨について」『史跡寺地遺跡』 青梅町教育委員会
- 森沢佐歳 1990 「栗山塙原遺跡出土骨概要」『栗山塙原遺跡、南中田A遺跡、任海塙原遺跡、南中田C遺跡』 富山県埋蔵文化財センター

図 版



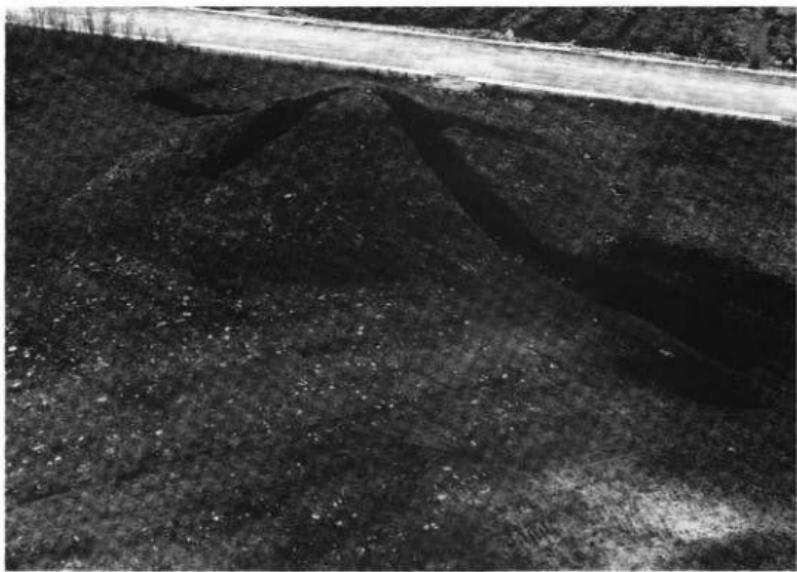
1. 調査地区全景（西）



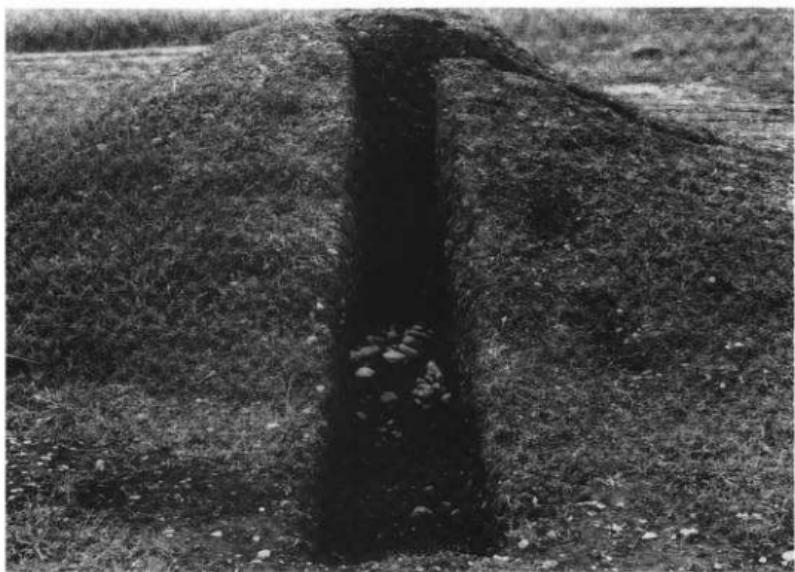
2. 調査地区全景（北）



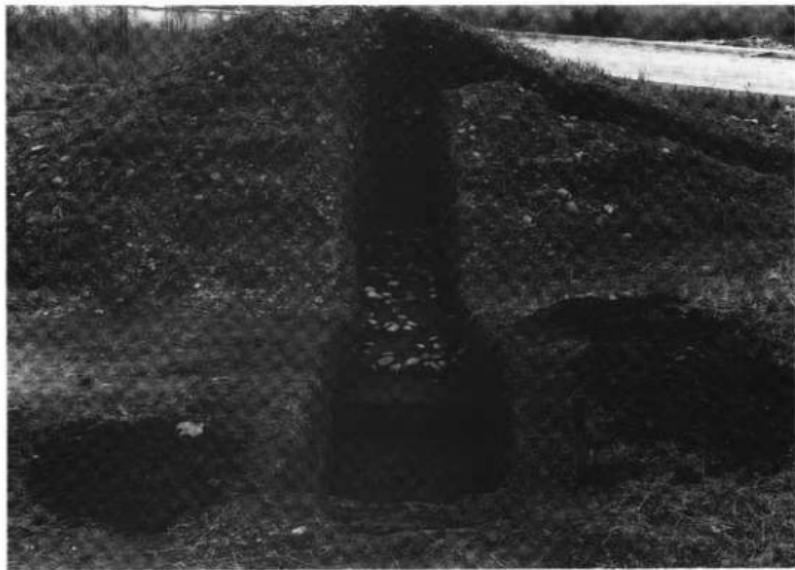
1. 石塔近景（北東）



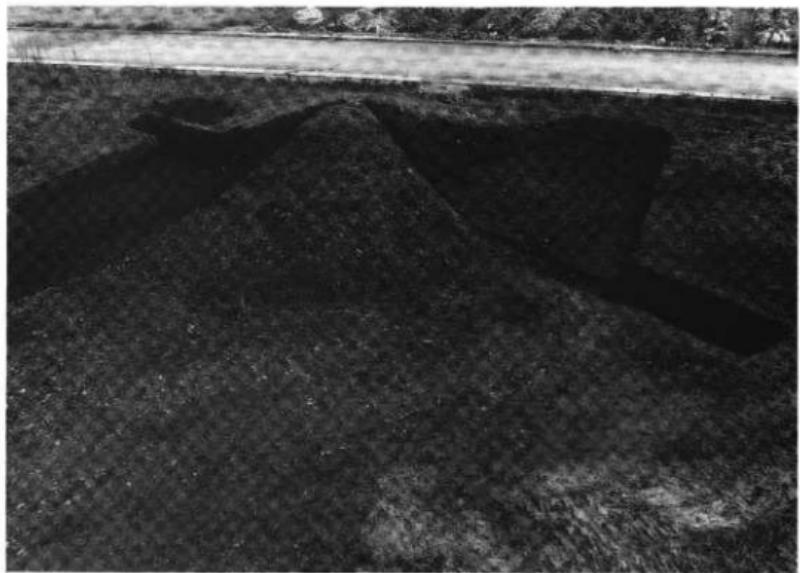
2. 試掘坑設定狀況全景（北西）



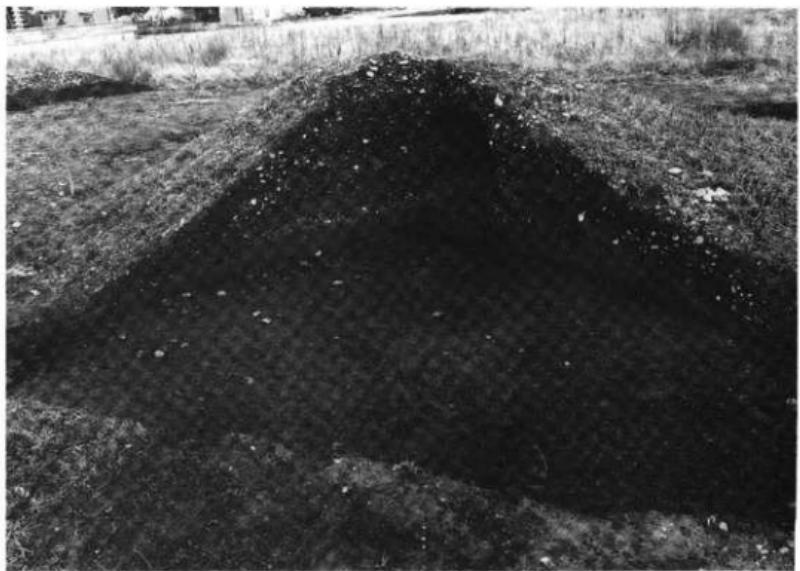
1. 試掘坑設定状況近景（東）



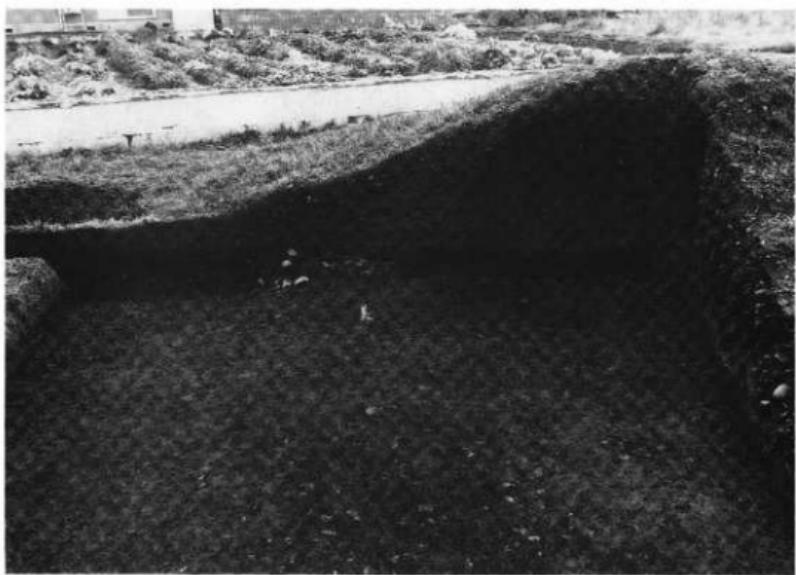
2. 試掘坑設定状況近景（西）



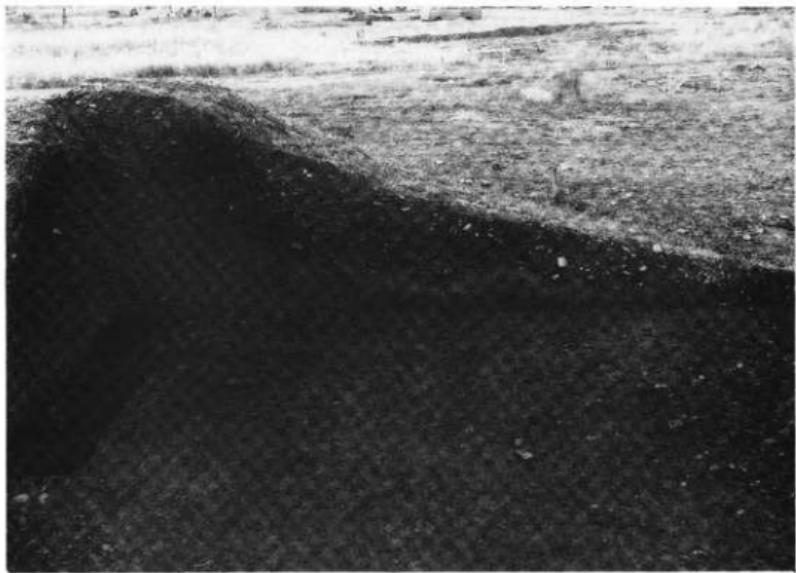
1. 発掘区全景（北西）



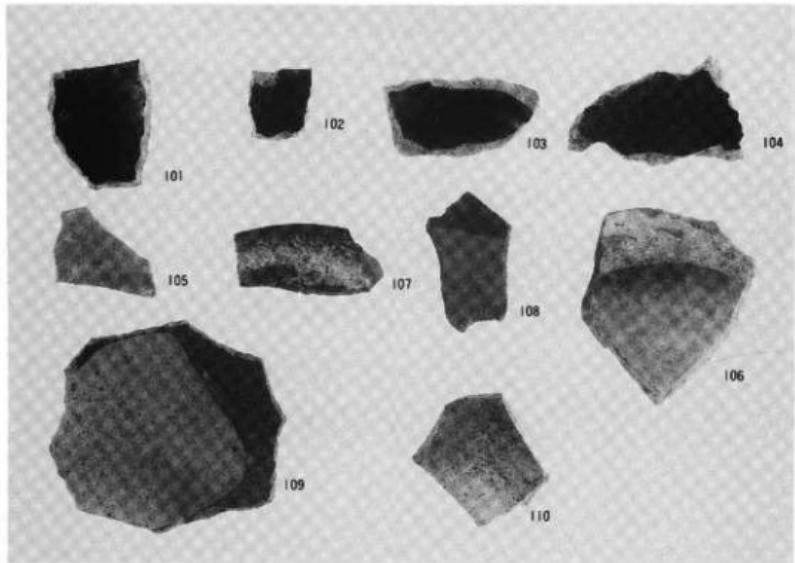
2. 盛土状況近景（南西）



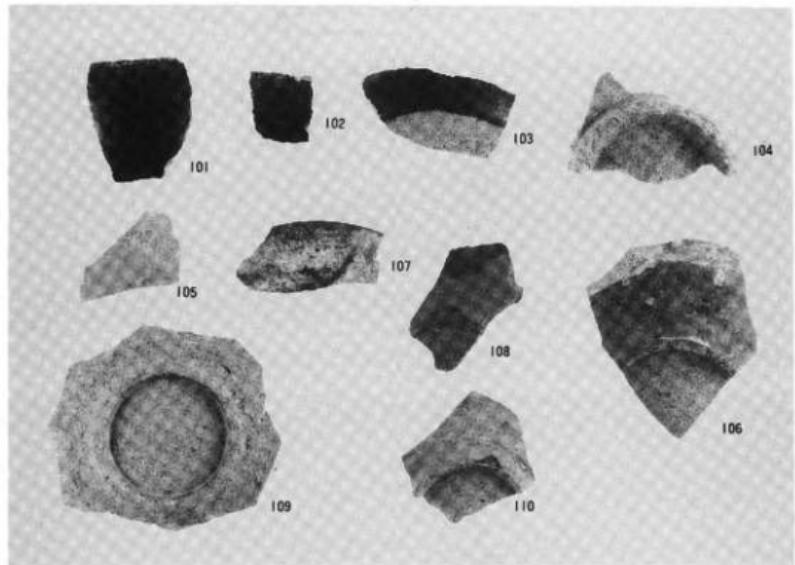
1. 盛土狀況近景（北）



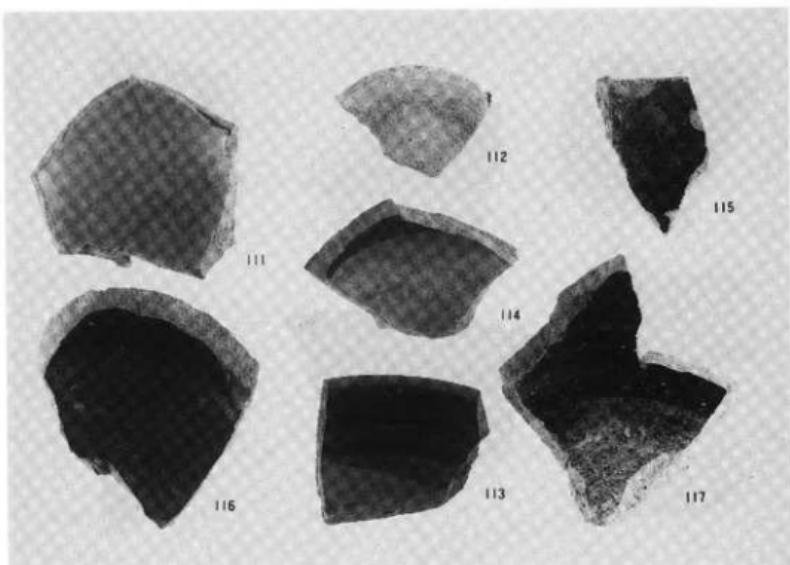
2. 盛土狀況近景（東）



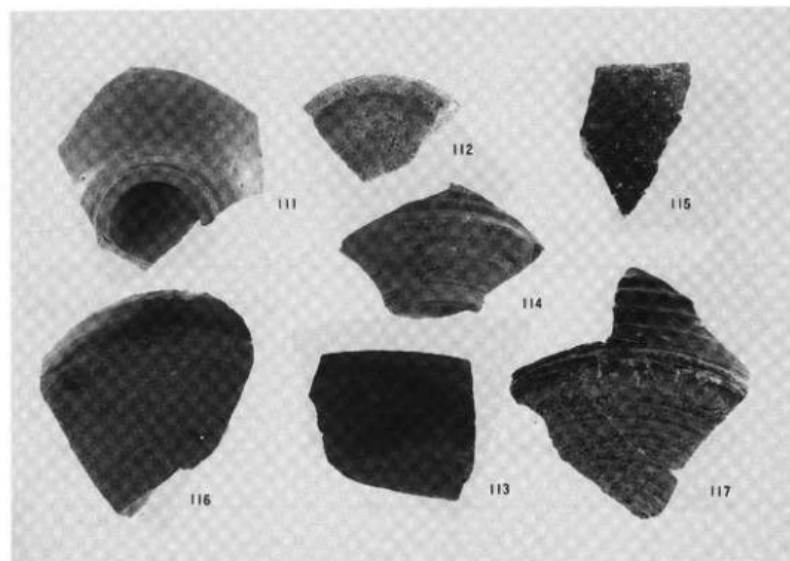
1. 近世陶器、内面



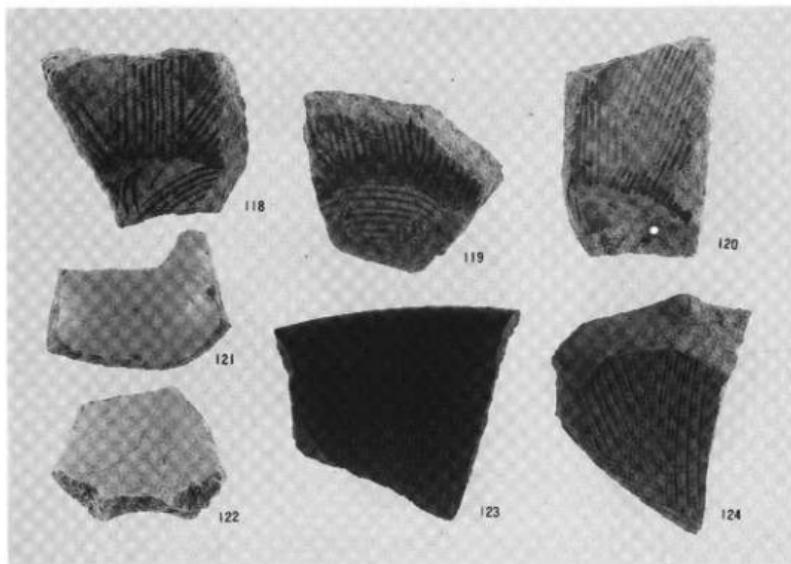
2. 近世陶器、外面



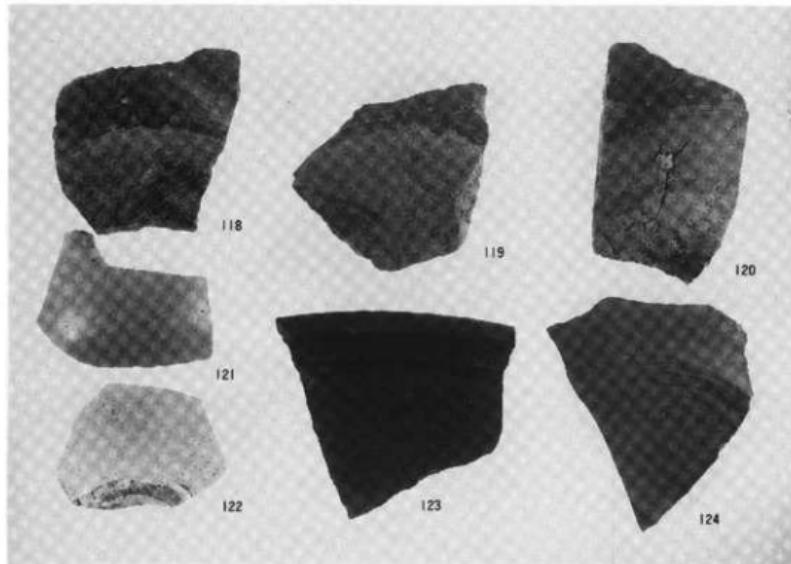
1. 近世陶器、内面



2. 近世陶器、外面



1. 近世陶器、内面



2. 近世陶器、外面

---

高岡市埋蔵文化財調査概報第23冊

移田野塚遺跡調査概報

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市庄小路 7-50

1993年3月31日

印刷所 小間印刷株式会社

富山県高岡市利屋町 3

---